

# 集落で取組む獣害対策を支援

## ■ 東かがわ市水主地区 ■

(東讃農業改良普及センター 矢木聖敏)

### ●対象の概要

東かがわ市水主地区は、与田川流域に広がる水田農業地帯で、主な農作物は早期栽培コシヒカリ「水主米」とパセリ、ブロッコリー、ネギなどの野菜類である。同地区には4つの連合自治会組織があり、自治会活動を行っている。

水主地区には平成10年頃からイノシシが出没し始めたのに続き、平成20年頃にはサル群も自治会全体に出没するようになった。イノシシの被害は、集落ぐるみの侵入防止柵設置により解決できるようになったが、サルの被害は個々の対策にとどまり、家庭菜園や地域の主要作物「水主米」にも被害が発生するようになっていた。

### ●課題を取り上げた理由

イノシシやサルによる農作物被害が地域農業の問題となる中、東讃普及センターと東かがわ市農林水産課及び農業委員会が「女性が主役の獣害対策講習会」の開催を呼びかけたところ、水主地区の女性農業委員が中心となり平成27年1月から女性を中心とした獣害対策の取組が始まった。

また、平成30年6月には、水主第2自治会の男性有志から、集落ぐるみでサルの追い払いに取り組み、拡大するサル被害を何とかしたいとの要望が上がってきた。さらに、令和2年には、隣接する第1自治会からも、年々深刻になる獣害についての支援を求める声があがった。

このような地域住民による主体的な動きに対し、普及センターは水主地区の集落ぐるみの獣害対策を支援することになった。

### ●普及活動の経過

#### 1 「女性が主役の獣害対策講習会」の取組み支援

獣害対策と言えば男性の役割とされてきたのに対し、効果的な獣害対策を推進するためには女性の力も合わせて取り組むことが必要と考え、普及センターは「女性が主役の獣害対策講習会」で獣害対策を支援した。

講習会は、イノシシやサルの生態や被害防止対策についての知識を深めてもらうだけでなく、農作物を栽培、収穫することを第一目的とした「営農管理の視点」からの対策手法の実習を交え、2か年で計13回行った。

参加した女性たちは、これまで経験したことのないカボチャの棚栽培やサツマイモの竹マルチ栽培の実習、サルの追い払い用「ひとし君」づくり等に意欲的に取り組んだ。



「ひとし君」を試射する女性たち

#### 2 「動物駆逐用煙火」を使ったサルの追い払いの始まり

他の地区で行われた「動物駆逐用煙火」を使ったサルの追い払いが効果的であるとの情報を得た水主第2自治会の男性数名がリーダーとなり、集落ぐるみの追い払いを行うことになった。普及センターでは、追い払い効果を高めるには正しい知識を身につけて行うことが必要と考え、勉強会を持つよう提案した。また、取組みにあたり、実施状況の把握のための調査を3か年継続して実施し、サルの出沒や追い払い効果の把握に努めた。

#### 3 過去に整備した侵入防止柵の点検活動

水主第1自治会では、平成23年から27年に4か年で約3kmの侵入防止柵が整備されているが、設置技術の不備や管理不足からイノシシ等の侵入を防止しきれず、普及センターに支援を求めてきた。普及センターでは、柵の点検活

動を支援するとともに、集落に接近するイノシシ等の状況把握を行うために、センサーカメラを使った調査を行った。

## ●普及活動の成果

### 1 獣害対策についての意識の高まり

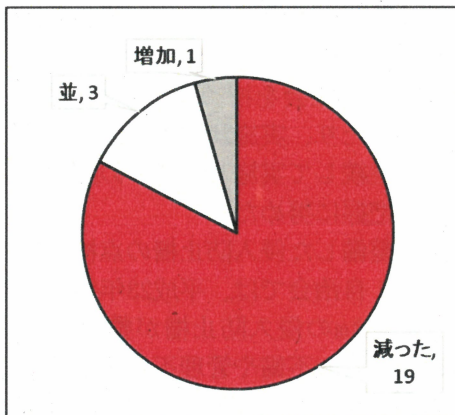
「女性が主役の獣害対策講習会」に参加した女性からは獣害対策についての理解が深まり、講習後には集落ぐるみの取組みを進めたいとの意見が聞かれた。また、集落中で花火の音がするようになるなど、女性もサルの追い払いに参加する姿がみられるようになった。さらに女性に交じり講習会に参加していた約4割の男性も獣害についての取組み意欲の高まりがみられ、後の追い払い活動のリーダーとなるなど集落ぐるみの獣害取組の土台ができた。



サル対策の勉強会に集まった男性たち

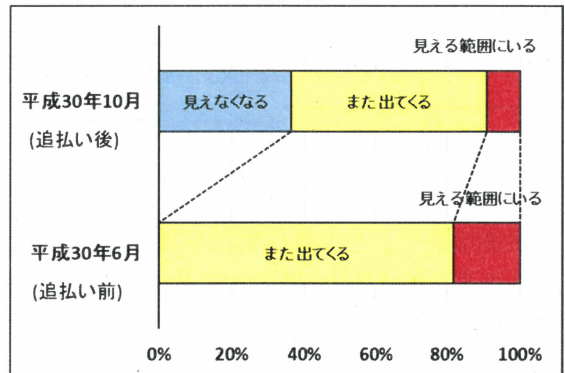
### 2 追い払い効果を実感

「動物駆逐用煙火」を使ったサルの追い払いにあたり勉強会を持ったことで、集落ぐるみの追い払い活動が行われ、調査26地点のうち7地点でサルが出没しなくなったほか、サルの出没数が年々半減したり、人に対するサルの反応が敏感になり追い払い活動がしやすくな



図一 令和元年のサル目撃頭数の変化 (H29比)

るなどの成果が出た。このような目に見える変化が出たことで、集落ぐるみの追い払い効果を実感する人が増え、追い払いが継続的に行われた。



図一 人に対するサルの反応の変化

### 3 周辺自治会への波及

水主第2自治会を中心とした住民主体のサル対策が効果的に推移したことで、集落ぐるみの取組みが周辺の第1や第3自治会に波及し、「動物駆逐用煙火」を使った追い払いを行う人が増加したり、侵入防止柵の点検活動を集落で行う動きにつながった。



サルの追い払団結式 (第1自治会)

## ●今後の普及活動の課題

地域住民による主体的な動きに対し普及センターの支援が加わり、効果的な獣害対策が行われるようになった。この取組みを継続的なものにするには、集落ぐるみの獣害対策の原動力となっている「水主米」生産に対する支援が欠かせない。

地域農業の振興対策と獣害対策を組み合わせた支援が重要である。